

## 幅広ガンがピーニングの概念を変えた

### 幅広ガンによるウェットピーニング工法

ピーニング工法は、自動車業界において軽量化・ローコスト化を目指す時代の流れの中で、その必要領域が拡大している。例えば軽量化目的では、シャシーやアクスル周辺のプレス成形による部品と、ピストンやシャフトなどのエンジン部品などの強度や疲労寿命の問題を解決するために、この工法が必須となっている。さら

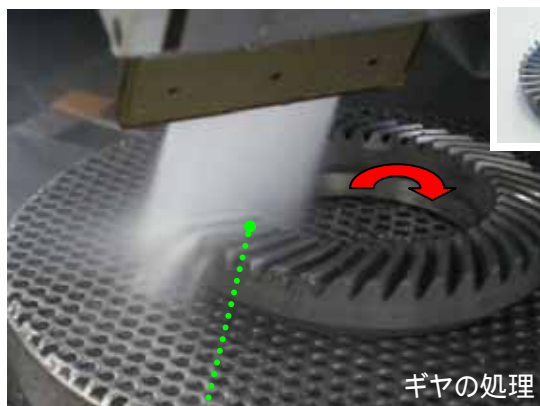
に、ローコスト化を目的に設備の自動化やライン化をおこない、製造工程を内製化したいと言う要求も高まっている。

新しく開発された幅広ガンを使ったピーニング法は、一定面積の処理を1パスで均一におこなうことで、ガンのオシレーションが必要なく、処理時間とスループットが短縮される。

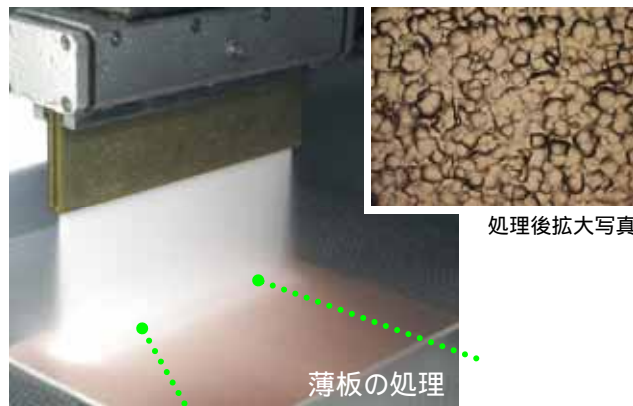
また、オシレーション不用は装置構造のシンプル化、ローコスト化をもたらす。さらにウェット式では、ドライに必要な前洗浄、前処理が不要で、かつ粉塵などを発生させず作業環境に良く、内製化によるメリットを引き出せる。

この工法は、利用分野に制限が無く、さまざまな産業で役に立つと思われる。

## ピーニング工法の問題点と幅広ガンによる問題解決法



幅の広いスリット状のノズルが歯を一枚ずつ処理していくため、オシレーションが必要なく処理時間が短縮できる



ガンからの投射分布が一定

大面積を1パスで処理できる

## 幅広ガンを使ったウェットピーニング処理の応用例

